

平成 29 (2017) 年度

東京大学大学院薬学系研究科

薬学博士課程学生募集要項

薬学専攻

東京大学大学院薬学系研究科

平成29（2017）年度

東京大学大学院薬学系研究科薬学博士課程学生募集要項

薬学専攻

薬学博士課程は、修業年限4年の博士課程である。

教育研究上の目的

薬学は、医薬の創製からその適正使用までを目標とし、生命に関わる物質、及び、その生体との相互作用を対象とする学問体系である。本研究科は薬学の全ての分野において、最高水準の研究活動を行い、これに裏付けられた教育活動により、創薬科学および基礎生命科学の発展に寄与する研究者、医療行政に貢献する人材、高度医療を担う薬剤師の養成を教育・研究の目的とする。

求める学生像

- ・深い専門性に根ざし、薬学的な思考法、論理的で先端的な方法論や分析能力などを身につけることができる人。
- ・高度な知識と研究能力を礎として薬学がカバーすべき広範な基礎及び応用科学の諸分野をリードし、将来にわたり国際的な活躍を目指す人。

1. 出願資格

- (1) 大学における修業年限6年の薬学を履修する課程を卒業した者及び平成29（2017）年3月31日までに卒業見込みの者（注4）
- (2) 大学における医学、歯学又は修業年限6年の獣医学を履修する課程を卒業した者及び平成29（2017）年3月31日までに卒業見込みの者（注4）
- (3) 外国において、学校教育における18年の課程（最終の課程は薬学、医学、歯学又は獣医学）を修了した者及び平成29（2017）年3月31日までに修了見込みの者（注4）
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程（最終の課程は薬学、医学、歯学又は獣医学）を修了した者及び平成29（2017）年3月31日までに修了見込みの者（注4）
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程（最終の課程は薬学、医学、歯学又は獣医学）を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成29（2017）年3月31日までに修了見込みの者（注4）
- (6) 昭和30年文部省告示第39号をもって文部科学大臣の指定した者（注1）
- (7) 外国において学校教育における16年の課程（薬学、医学、歯学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了し、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国

において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程（薬学、医学、歯学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了し、所定の単位を優秀な成績で修得したものと本研究科において認めた者（注2）

(8) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程（薬学、医学、歯学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、所定の単位を優秀な成績で修得したものと本研究科において認めた者（注2）

(9) 個別の入学資格審査をもって、大学を卒業した者と同等以上の学力があると本研究科が認めた者で、平成29（2017）年3月31日において24歳に達しているもの（注3）（注4）

（注1） 上記(6)で文部科学大臣の指定した者は、以下の者を示す。

- ① 旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学の医学又は歯学の学部において医学又は歯学を履修し、これらの学部を卒業した者
- ② 防衛省設置法（昭和29年法律第164号）による防衛医科大学校を卒業した者
- ③ 修士課程又は学校教育法（昭和22年法律第26号）第99条第2項の専門職大学院の課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者並びに前期及び後期の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者（学位規則の一部を改正する省令（昭和49年文部省令第29号）による改正前の学位規則（昭和28年文部省令第9号）第6条第1号に該当する者を含む。）で大学院又は専攻科において、大学の医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
- ④ 大学（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの及び獣医学を履修する課程を除く。）を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院又は専攻科において、当該研究の成果等により、大学の医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（注2） ① 上記(7)又は(8)で出願しようとする者は、出願前に入学資格審査を行うので、平成28（2016）年5月30日（月）までに本研究科教務チーム(7.14)に次の書類を提出すること。出願資格等については、事前に問い合わせること。

- a. 略歴書
 - b. 出身大学の卒業（修了）証明書及び成績証明書
 - c. 出身大学の学長、学部長、学科主任教授又は指導教授からの推薦書
 - d. 審査結果通知用封筒（宛名を記入、必要分の切手を貼ったもの）
- ② 出願前の審査で、上記(1)又は(2)に掲げる大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者について、出願を受け付け、受験を許可する。

(注3) ① 上記(9)に該当する者とは、上記(1)から(8)に該当しない者のうち、6年制の大学に相当する教育施設における薬学、医学、歯学又は獣医学を履修する課程の卒業生(修了者)等で、個別の入学資格審査により、上記(1)又は(2)に掲げる大学を卒業した者と同等以上の学力があると本研究科において認められた者とする。

② 上記(9)で出願しようとする者は、出願前に個別の入学資格審査を行うので、平成28(2016)年5月30日(月)までに本研究科教務チーム(7.14)に指定する書類を提出すること。出願資格及び提出書類については、事前に問い合わせること。

③ 出願前の審査で、上記(1)又は(2)に掲げる大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者について、出願を受け付け、受験を許可する。

(注4) 平成28(2016)年9月23日付け入学希望者(以下、平成28(2016)年9月入学希望者)の場合、上記(1)~(9)における「平成29年(2017)年3月31日」については、「平成28(2016)年9月22日」に読み替えるものとする。なお、平成28(2016)年9月23日から9月30日までの間に、出願資格(1)から(9)のいずれかを満たす者は、出願を認める場合があるので、該当者は事前に本研究科教務チーム(7.14)に問い合わせること。

2. 選抜方法

- (1) 入学者の選抜は、筆記試験、口述試験及び出身学校の学業成績による。
- (2) 日本の大学を卒業していない外国人は、外国人留学生特別選抜とする。
- (3) 在職のまま入学を希望する者は、社会人特別選抜とする。

3. 募集人員及び筆記試験科目

専攻名	募集人員	筆記試験科目		
		外国語	専門科目	小論文
薬学	10名 (社会人特別選抜 若干名を含む) 及び外国人留学生 特別選抜若干名	英語 (TOEFL ITP®)注)	有機化学3題・生物化学3題・ 物理化学2題・薬理学1題・ 薬剤学1題・分析化学1題・ 社会薬学1題・医療薬学1題 の8科目13題のうちから2題 選択	5題のうち から1題選 択

注) TOEFL ITP®とは、団体向けTOEFLプログラム。大学院入学試験場でTOEFL ITP (LEVEL 1) の試験を行う。

TOEFL ITP®は、Listening Comprehension, Structure and Written Expression 及び Reading Comprehensionから成る。

- (1) 口述試験は、専門科目及び研究業績概要・志望理由・研究計画について行う。
- (2) 試験の結果によっては、入学許可者数が募集人員に達しない場合がある。

4. 試験期日及び場所

- (1) 試験期日は次のとおりとする。
 - ① 筆記試験 平成28(2016)年8月18日(木)
 - ② 口述試験 平成28(2016)年8月19日(金)

※ 平成28（2016）年9月入学希望者の選考も上記期間に実施する。

(2) 試験の時間割及び場所は、出願者に直接通知する。

5. 合格者の発表及び入学手続

(1) 合格者（入学許可内定者）の発表（受験番号）は、平成28（2016）年9月1日（木）午後4時頃に薬学部本館玄関内臨時掲示板に掲示する。

(2) 合否通知は、平成28（2016）年9月1日（木）に本人宛送付する。

(3) 入学手続は、合否通知に同封される入学手続要領により、所定の期間内に所定の手続き（入学料納付・書類提出等）を行うこと。なお、所定の期間内に入学手続を行わない場合は、入学しないものとして取り扱う。

(4) 平成28（2016）年9月入学希望者の合格発表は、上記(1)、(2)のとおり行う。なお、入学手続等については、発表後、本研究科教務チーム（7.14）において指示する。

(5) 入学時に必要な経費（平成29（2017）年度予定額）

〔日本政府（文部科学省）奨学金留学生に対しては徴収しない。〕

① 入学料 282,000円（予定額）

② 授業料 前期分 260,400円（年額 520,800円 予定額）

注1) 9月入学者については、入学年度に303,800円（9月～3月：年額の12分の7）の納付となる。

（なお、標準修業年限による修了見込年度は217,000円（4月～8月：年額の12分の5）の納付となる。）

注2) 上記納付金額は、予定額であり、入学時又は在学中に学生納付金改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金額が適用される。

6. 出願手続

(1) 出願は郵送に限る。郵送にあたっては、「提出書類等」を一括して出願用封筒（本要項付属の指定封筒）に入れ、書留郵便で提出すること。

(2) 受付期間

平成28（2016）年6月23日（木）から平成28（2016）年6月30日（木）までの消印があるものを受け付ける。

(3) あて先

東京大学大学院薬学系研究科事務部教務チーム

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

(4) 提出書類等

① 入学願書 本研究科所定の用紙に所要事項を記入したもの

② 研究業績概要・志望理由・研究計画

本研究科所定の用紙に記入したもの。所定の様式は、ホームページ（<http://www.f.u-tokyo.ac.jp/exam/>）よりダウンロードすることができる。

③ 成績証明書 出身大学（教養課程を含む。）のもの。ただし、本学薬学部を卒業した者及び卒業見込みの者は、提出する必要はない。

大学院修士課程（博士前期課程）又は専門職学位課程を修了若しくは修了見込みの場合は、その成績も併せて提出すること（外国人は、出身

大学の卒業証明書（学士課程）を併せて提出）。

④ 写真 2枚（3ヶ月以内撮影の正面上半身脱帽のものを入学願書及び受験票の
所定の欄に貼ること。）

⑤ 返信用封筒 所定の返信用封筒に出願者本人の宛名を記入すること。

a. 受験票等送付用 本要項付属の指定封筒に、372円分の切手を貼ること。

b. 合格通知等送付用 本要項付属の指定封筒に、400円分の切手を貼ること。

⑥ 外国人留学生特別選抜受験者は、指導教員又はこれに準ずる者（勤務先であればその
長又は代表者）による日本語の学力を表す証明書（所定様式）を提出すること。なお、
国際交流基金及び日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験認定書の写しをもっ
てこれに換えることができる。ただし、本研究科大学院外国人研究生については、提出
する必要はない。

(5) 検定料について

① 検定料 30,000円

（銀行振込もしくはコンビニエンスストア又はクレジットカードでの払込に限る。）

※ ただし、下記の者については、検定料は徴収しない。

a. 本学大学院修士課程（博士前期課程）又は専門職学位課程を平成29（2017）年3月
に修了見込みの者

b. 日本政府（文部科学省）奨学金留学生

〔本学薬学部又は本研究科に在学中の者（研究生を含む）以外は、日本政府（文部
科学省）奨学金留学生である証明書を提出すること。〕

② 振込期間 出願期間と同じ

③ 振込場所及び方法

【銀行振込の場合】

本要項付属の検定料振込依頼書（銀行振込用）に、「※出願者へのお願い」を参照、必
要事項を記入のうえ、最寄りの金融機関（ゆうちょ銀行・郵便局は不可 注）から振り込
むこと（ATM、インターネット等は利用しないこと 注）。振込の際、振込金受取書（B
票）及び振込金受付証明書（C票）を受け取り、振込金受付証明書（C票）を入学願書
の裏面の所定欄に貼り付けること。振込金受取書（B票）は領収書なので、大切に保管
すること。

なお、振込先銀行の本・支店以外から検定料を払い込む場合は、振込手数料が出願者
本人の負担となるので、留意すること。

注）ゆうちょ銀行・郵便局、ATM、インターネット等での振込では、振込金受付証明書（C票）が発行さ
れないので、利用しないこと。

【コンビニエンスストア又はクレジットカードでの払込の場合】

コンビニエンスストアは、セブン-イレブン、サークルK、サンクス、ローソン、ミニ
ストップ及びファミリーマートに限る。

実際の払込に関する操作手順や注意事項については、別紙「東京大学大学院薬学系研
究科コンビニエンスストア・クレジットカードでの検定料払込方法」を参照のうえ払い

込むこと。出願に必要な収納証明書等は大切に取り扱い、入学願書の裏面の所定欄に貼り付けるなどにより提出すること。

なお、払込の際に発生する払込手数料は出願者本人の負担となるので、留意すること。

7. 注意事項

- (1) 受験票は、出願手続完了後に直接本人に送付するが、平成28（2016）年8月4日（木）までに到着しない場合は、本研究科教務チーム（7.14）へ連絡すること。
- (2) 出願手続後は、どのような事情があっても書類の変更は認めない。また、検定料の払い戻しも行わない。
- (3) 障害等のある者は、受験及び修学上特別な配慮を必要とすることがあるので、これを希望する者は、出願時に本研究科教務チーム（7.14）に申し出ること。
- (4) 本研究科においては、平成29（2017）年4月入学のほかに、平成28（2016）年9月入学を認めることがある。
- (5) 事情によっては、出願手続、試験期日等について変更することがある。
- (6) 出願に当たって知り得た氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続業務を行うために利用する。また、同個人情報は、入学者のみ①教務関係（学籍、修学等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請、図書館の利用等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用する。
- (7) 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の本学の入試及び教育の改善に向けた検討のために利用することがある。
- (8) 外国人は、入学手続（5.3）時まで「出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）」において、大学院入学に支障のない在留資格を有すること。
- (9) 在職者は、入学試験に合格しても退職又は休職しなければ入学することができない。ただし、社会人特別選抜合格者は、在学中学業に専念させる旨の職務先の長の承諾書（様式随意）を入学手続（5.3）時に提出すること。
- (10) 外国において後期中等教育及び大学教育を修了又は修了見込みの日本人には、特別選抜を行うことがあるので、事前に本研究科教務チーム（7.14）に問い合わせること。
- (11) 研究論文があれば提出してもよい。
- (12) 入学手続後は、どのような事情があっても入学料の払い戻しは行わない。
- (13) 入学願書における履歴等について虚偽の記載をした者は、入学後においても遡って入学を取り消すことがある。

(14) 問い合わせ・連絡先

東京大学大学院薬学系研究科事務部教務チーム
電 話 03-5841-4704（午前9時～午後5時）
Eメール gakuin1@mol.f.u-tokyo.ac.jp

平成28（2016）年3月

【東京大学大学院薬学系研究科薬学博士課程入学願書記入上の留意事項】

1. 志望教室名を第1志望欄に記入すること。ただし、学生受入人数が決まっている教室（別紙「平成29年度薬学系研究科担当教員研究分野一覧」中の募集人数欄に数字が入っている教室）を志望する場合は第2志望を必ず記入すること。
2. 外国人留学生特別選抜に該当する者は、願書の所定欄に✓印をつけること。
3. 社会人特別選抜を希望する者は、願書の所定欄に✓印をつけること。
4. 9月入学を希望する者は、願書の所定欄に✓印をつけること。
5. 入学願書の裏面（履歴）も必ず記入すること。
6. 「研究業績概要・志望理由・研究計画」について
 - (1) 記入の際は、必ず所定の様式を使用すること。
 - (2) 所定の様式は、ダウンロードすることができる。その場合は、レイアウトを変更しないこと。
 - ① ホームページURL：<http://www.f.u-tokyo.ac.jp/exam/>
 - ② A4版1枚（両面印刷にて提出すること。）
 - ③ 10.5ポイントを使用する。
 - ④ 枠外への記入はしてはならない。
 - ⑤ 図を使用する場合は、枠内にデータとして挿入すること（両面印刷内に納めること。）。
 - ⑥ 研究業績がない場合は、活動内容を記載すること。
 - (3) 所定の様式以外の提出は認めない。
7. 東京大学薬学部卒業見込者以外の受験希望者は、第1志望の志望指導教員と入学願書提出前に必ず面談をしておくこと。また、既に在籍している者についても、指導教員の変更を予定している場合は、必ず面談を行うこと。

平成29年度薬学系研究科担当教員研究分野一覧

東京大学大学院薬学系研究科

【薬科学専攻】・【薬学専攻】

教員名	研究分野	募集人数			教室名	講座	部局
		薬科学専攻		薬学専攻			
		修士課程	博士後期課程	薬学博士課程			
教授 大和田 智彦	有機化学、構造有機化学、有機理論化学、創薬化学	◎	◎	◎	薬化学	基幹講座	薬学系研究科
講師 尾谷 優子	有機化学、非天然アミノ酸ペプチドの化学、ペプチド計算科学						
教授 井上 将行	有機化学、天然物合成化学、生物有機化学	◎	◎	◎	有機反応化学		
講師 占部 大介	有機化学、天然物合成化学						
教授 金井 求	有機合成化学、不斉触媒化学、新規反応の開発	◎	◎	◎	有機合成化学		
教授 阿部 郁朗	天然物の生合成、単離構造決定、生物活性	◎	◎	◎	天然物化学		
准教授 岡田 正弘	天然物化学、生物有機化学						
教授 内山 真伸	元素化学・計算化学・分光学で分子の構造や性質を理解し、新しい物質や反応を構築する	◎	◎	◎	基礎有機化学		
講師 宮本 和範	元素の特性を活かした新反応開発・機能創出、理論計算や速度論に基づく反応機構解析・機能設計						
教授 浦野 泰照	ケミカルバイオロジー、光機能性分子開発、In vivo がん蛍光イメージング	◎	◎	◎	薬品代謝化学		
准教授 花岡 健二郎	ケミカルバイオロジー、生物有機化学、バイオイメージング						
准教授 折原 裕	薬用植物の組織培養と有用物質生産、天然物化学（薬用植物成分、外来有機化合物の植物変換）	◎	◎	◎	薬用植物化学（薬用植物園）		
教授 橋本 祐一	生物応答調節剤の基礎分子医薬化学、核内レセプターリガンドの医薬化学、細胞行動と遺伝子発現の化学制御	◎	◎	◎	生体化学（生体有機化学）	協力講座	分子細胞生物学研究所
准教授 石川 稔	創薬化学、生物有機化学						
講師 藤井 晋也	転写制御の創薬化学、医薬元素化学						
教授 船津 高志	生物物理学：生体分子の1分子機能解析と1分子操作	◎	◎	◎	生体分析化学	基幹講座	薬学系研究科
講師 角田 誠	生体分析化学、分離分析、マイクロ化学分析システム						
教授 嶋田 一夫	構造生物学、構造ゲノム学、生体内ネットワーク解析（構造プロテオミクス）、受容体・リガンド相互作用の解明、ドラッグデザイン、新規NMR研究法の開発	◎	◎	◎	生命物理化学		
准教授 西田 紀貴	構造生物学、核磁気共鳴法による蛋白質の動的構造解析						
教授 清水 敏之	構造生物学、蛋白質結晶学	◎	◎	◎	蛋白質構造生物学		
講師 大戸 梅治	構造生物学、受容体の活性制御機構						
教授 新井 洋由	生体膜の生物学と疾患	◎	◎	◎	衛生化学		
講師 河野 望	脂質生物学、生体膜脂質の恒常性制御						
講師 福山 征光	分子遺伝学、栄養状態と発生プログラムの相互作用	◎	◎	◎	生理化学		
教授 後藤 由季子	分子細胞生物学、神経発生、幹細胞、シグナル伝達	◎	◎	◎	分子生物学		
教授 三浦 正幸	プログラム細胞死の生理機能、神経発生学、細胞社会の構築制御	◎	◎	◎	遺伝学		
教授 一條 秀憲	分子細胞生物学、ストレスのシグナル伝達	◎	◎	◎	細胞情報学		
講師 名黒 功	細胞生物学、物理化学的ストレスの受容・応答						

教員名	研究分野	募集人数			教室名	講座	部局
		薬科学専攻		薬学専攻			
		修士課程	博士後期課程	薬学博士課程			
教授 村田 茂穂	細胞内タンパク質分解、生化学	◎	◎	◎	蛋白質代謝学	基幹講座	薬学系研究科
准教授 八代田 英樹	細胞内タンパク質分解、酵母遺伝学						
准教授 垣内 力	微生物学、細菌の病原性機構、細菌と宿主の相互作用	◎	◎	◎			
教授 井上 純一郎	(1) 細胞増殖・分化のシグナル伝達、(2) 癌悪性化の分子機構、(3) 免疫寛容の制御機構、(4) 骨代謝の制御機構	◎	◎	◎	細胞生物化学 (分子発癌)	協力講座	医科学研究科
教授 新井 洋由	細胞膜のリン脂質機能	2	2		疾患細胞生物学	寄付講座	薬学系研究科
特任准教授 田口 友彦	細胞内膜輸送、エンドソームの機能、細胞生物学						
教授 秋光 信佳	(1) 細胞内における非コードRNA (non-coding RNA) の機能と代謝制御機構 (2) 自然免疫応答制御機構	2	2		研究開発部	兼任教員	総合センター アイソントラップ
教授 山本 一夫	糖鎖認識の細胞生物学および免疫学	1	1		医薬デザイン工学		新領域創成 科学研究科
准教授 堀越 正美	エピジェネティクス制御及び複雑ネットワークシステムの解析	1	1		発生分化構造		分子細胞生 物学研究所
教授 楠原 洋之	薬物速度論、薬物トランスポーターの機能解析およびファーマコゲノミクス、薬物間相互作用の解析、脳へのドラッグデリバリーシステム	◎	◎	◎	分子薬物動態学	基幹講座	薬学系研究科
講師 前田 和哉	薬物速度論、数理モデルを介した薬物動態・薬物相互作用の定量的予測						
教授 池谷 裕二	システム薬理学、脳回路学	◎	◎	◎			
准教授 小山 隆太	神経薬理学、発達神経生物学、グリア生物学				薬品作用学		
教授 富田 泰輔	アルツハイマー病およびその他の精神神経疾患の病態生化学、プロテアーゼ・細胞内輸送の制御による創薬	◎	◎	◎	機能病態学		
教授 鈴木 洋史	臨床システム薬理・毒性学	◎	◎	◎	臨床薬物動態学 (薬剤部)	協力講座	医学部附属病院
特任准教授 本間 雅	骨代謝学、システム薬理学、抗体工学						
講師 高田 龍平	臨床薬理学、臨床薬物動態学、生活習慣病とトランスポーター						
特任准教授 堀 里子	育薬学、医薬品情報学、地域医療、薬局	2	2		育薬学	寄付講座	薬学系研究科
特任講師 三木 晶子	育薬・医薬品適正使用と医薬品の寿命管理（医薬品ライフタイム管理）、医薬品情報学						
教授 岩坪 威	神経病理学（アルツハイマー病、パーキンソン病）、臨床神経学	1	1		神経病理学	兼任	医学系研究科
准教授 小野 俊介	医薬品規制、医薬品研究開発、医療経済学、薬剤疫学、臨床評価	2	3		医薬品評価科学	基幹講座	薬学系研究科
特任准教授 五十嵐 中	薬剤経済学、医療経済学、医療統計学	2	2		医薬政策学	寄付講座	
特任准教授 清水 央子	医療および医薬品に関する情報学（データベース構築、創薬、医療機器開発における利活用、データヘルス）	募集なし	社会人 枠2		ファーマコビジネ ス・イノベーション		
特任講師 榎田 祥子	医療および生命科学領域における産業論、規制、知的財産マネジメント						

※募集人数欄に◎印が付されている教室は、原則として、入学試験に合格した志望者全員を受け入れる予定です。ただし、教室の受入可能限度があるため全員を受け入れられない場合があります。面談時に志望指導教員に確認してください。